QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人　九州森林ネットワーク

第 31 号 2022.9.13 発行

発行日 2022/9/13

<発　行>
NPO 九州森林ネットワーク
本部：熊本県小国町
<編集責任>
宮崎県諸塚オフィス

【目次】

第 10 回プレミアム研修会の報告 P.2～P10
第 27 回森林フォーラムについて P11～P12

巻 頭 文　　理事長 佐藤 宣子(福岡県 福岡市)

長く暑かった夏も過ぎ、実りの秋を迎えようとしています。すでに山間地では稲刈りも始まっています。

依然として新型コロナウィルス第 7 波が終息しない状況が続いていますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

QFN 通信 30 号で案内しました沖縄へのプレミアム研修はコロナ感染の拡大時期と重なり延期としました。沖縄に行けないのは残念でしたが、私は別途用事で今年は 4 度沖縄に行く機会がありました。備瀬のフクギ集落を訪ねたところ、風が強い海のすぐ側でも集落の中は風が穏やかで、樹木の防風効果に驚きました。潮の影響もないとのこと。台風シーズンを迎えて何度も沖縄が暴風圏内に入っているというニュースを聞きながら、木材を産出するだけではない森の役割について考えを巡らせています。本ネットワークで沖縄研修を、ぜひ実現させたいと思います。

さて、本 QFN 通信では、7 月 13 日に急遽開催したオンライン研修会（筑波大学　立花敏先生）の報告を記載しています。第 3 次ウッドショックについて詳しく学びました。

また、本年 12 月に宮崎県日向市で開催します第 27 回九州森林フォーラムの案内も掲載しています。3 年目を迎える新型コロナウィルス感染症のその後を見据えた森林・林業の行方について、赤堀楠雄様、古川泰司様を基調講演者にむかえ議論したいと考えております。

また、12 月のフォーラム時には総会も開催いたします。どうぞ、ご参加をよろしくお願いいたします。

2022 年 9 月 13 日　理事長　佐藤宣子

第 10 回 NPO 法人九州森林ネットワークプレミアム研修

国際情勢の変化に伴う国内木材価格の動向と今後の木材需給

in オンライン（Zoom使用）

九州森林ネットワークでは、過去8回に渡ってプレミアム研修会を九州各地で行ってきました。

この研修会を通して地域、業種を超えて会員各位の交流を図り、それぞれが抱える問題・課題など様々な意見交換を行ってきましたが、コロナが始まった年からはオンライン（Zoom使用）での講演を開催してきました。

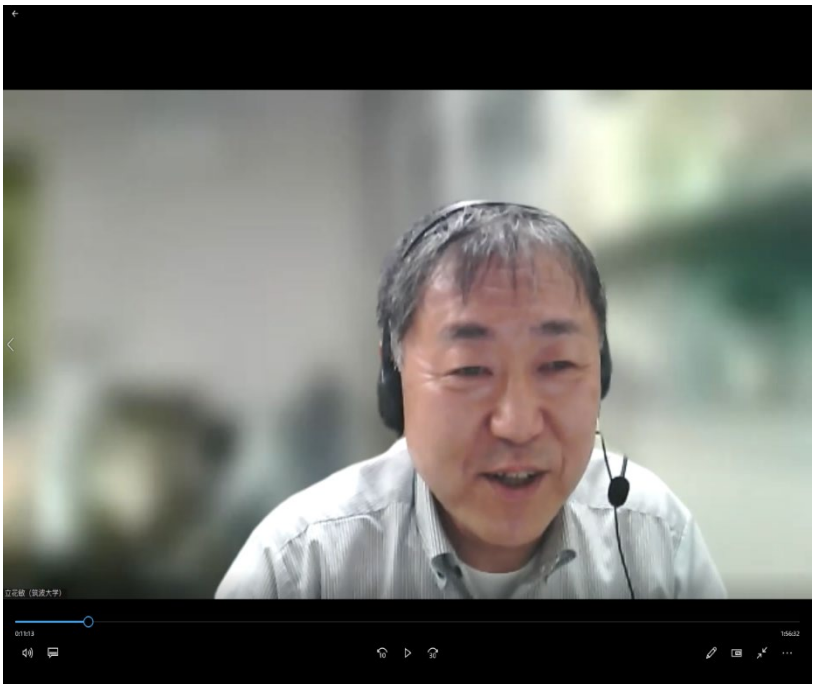
今回もオンラインで開催し、2021年5月から始まったウッドショックと言われる木材価格の高騰、さらにはロシアのウクライナ侵攻などによる国際情勢の変化によって木材価格、木材需要の動向が大きく変化しました。林業関係だけではなく、建築関係の会員のみなさんも価格上昇の背景、実態、行方について関心が高く多くの方が参加されました。講師に筑波大学准教授　生命環境系・大学院生命環境科学研究科　立花　敏先生を招き、オンライン（Zoom使用）で研修会を開催致しました。

日　　時　令和 4 年 7 月 13 日(水)　午後 7 時～　・オンライン研修会

講師①　筑波大学准教授　生命環境系・大学院生命環境科学研究科

立花　敏（ たちばな　さとし ）先生

演　題 「国際情勢の変化に伴う国内木材価格の動向と今後の木材需給」

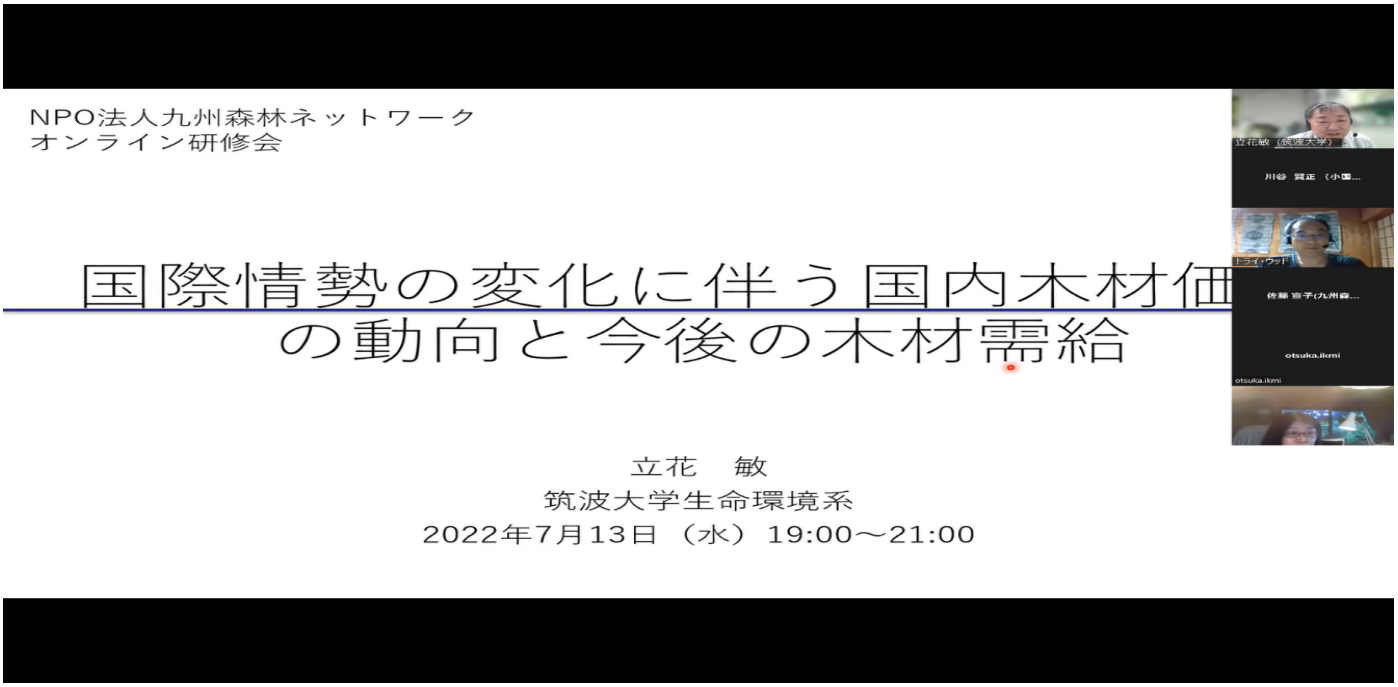


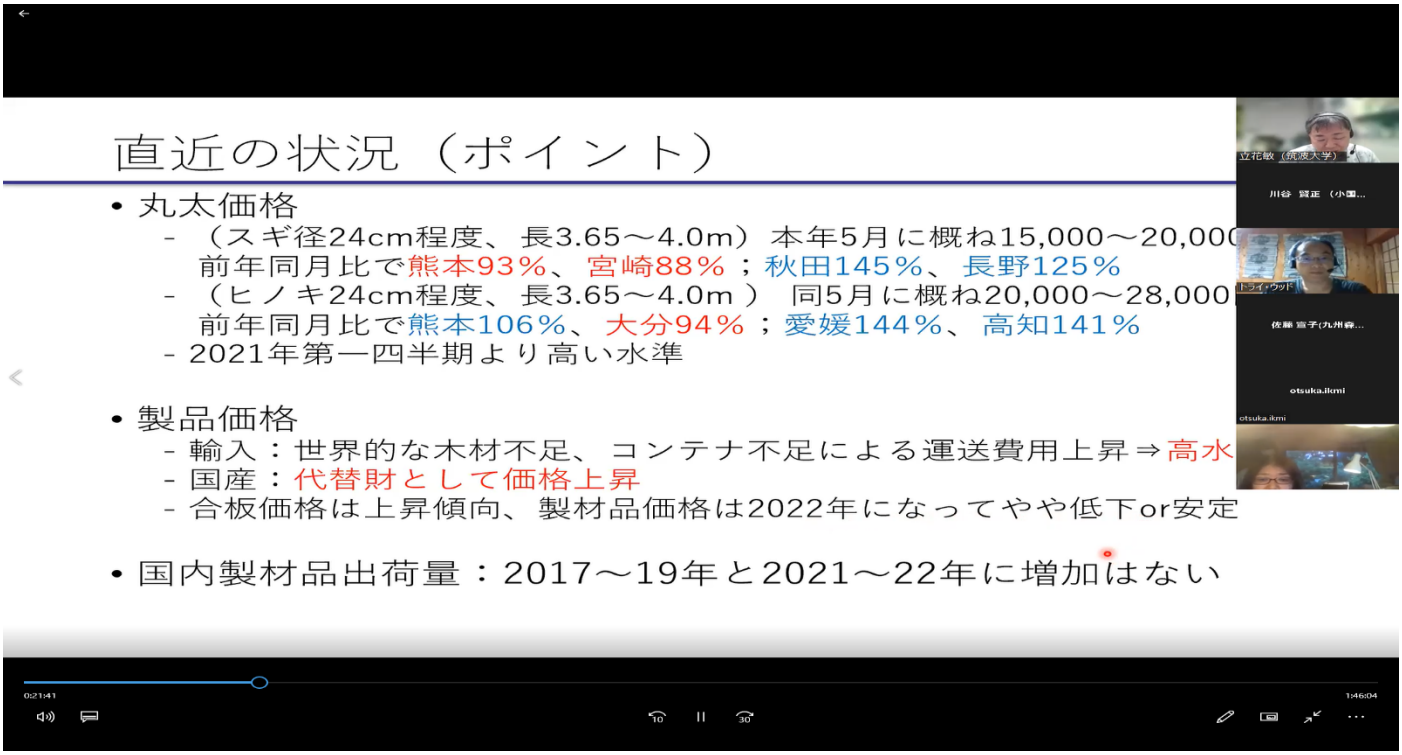
《講演のアウトライン》

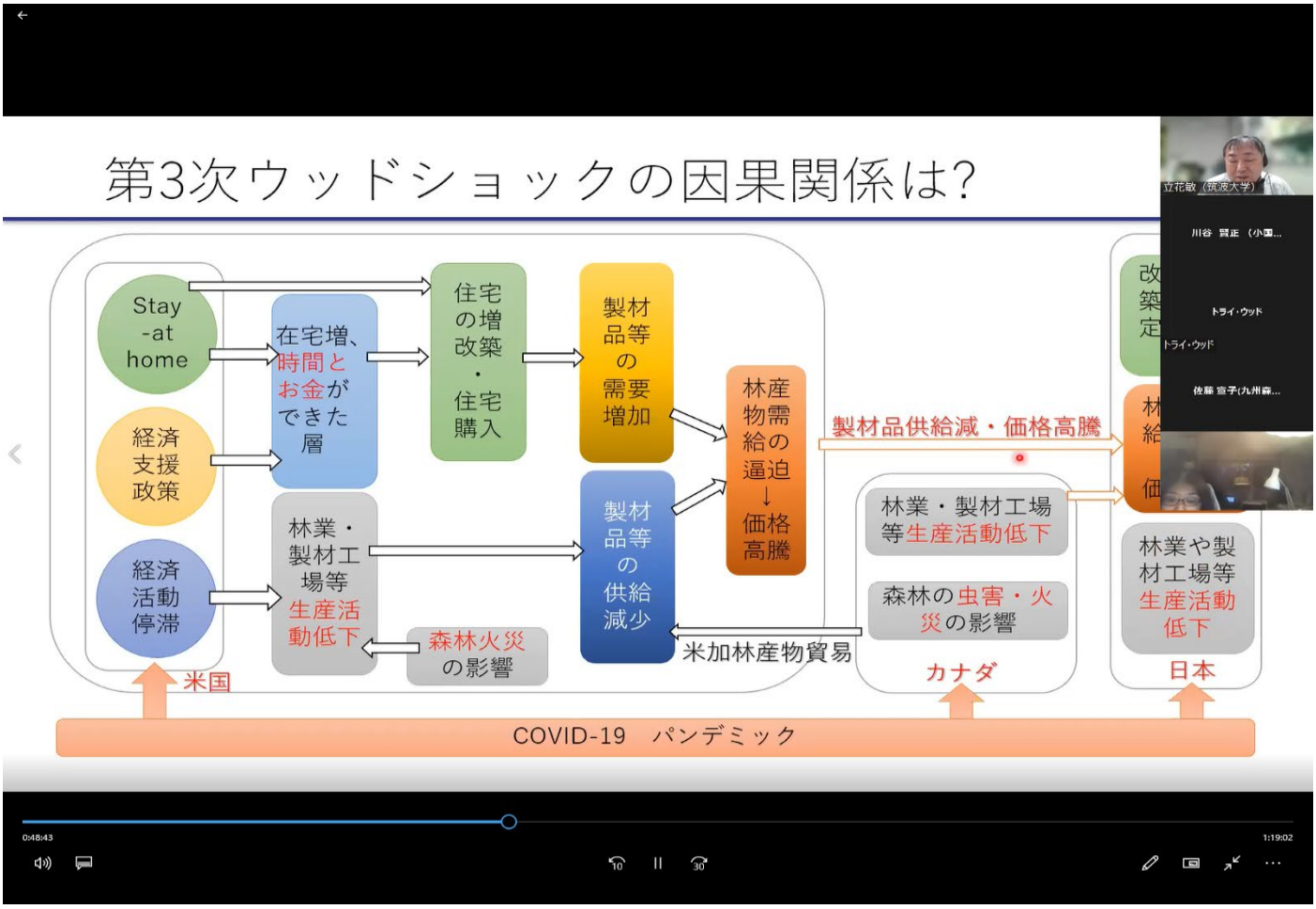
・林産物価格の直近の状況および国内の価格動向

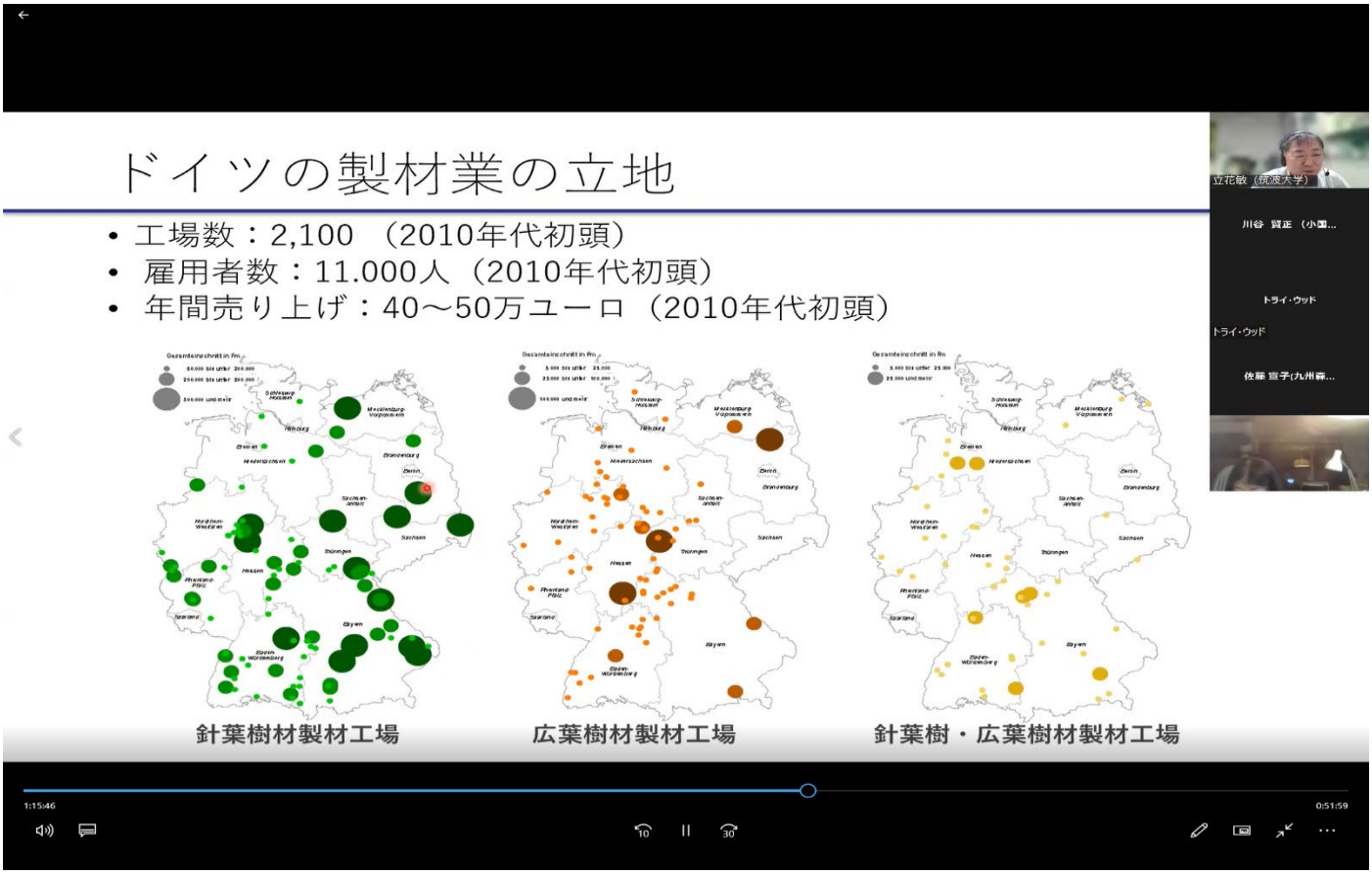
・価格上昇はなぜ起きるのか？

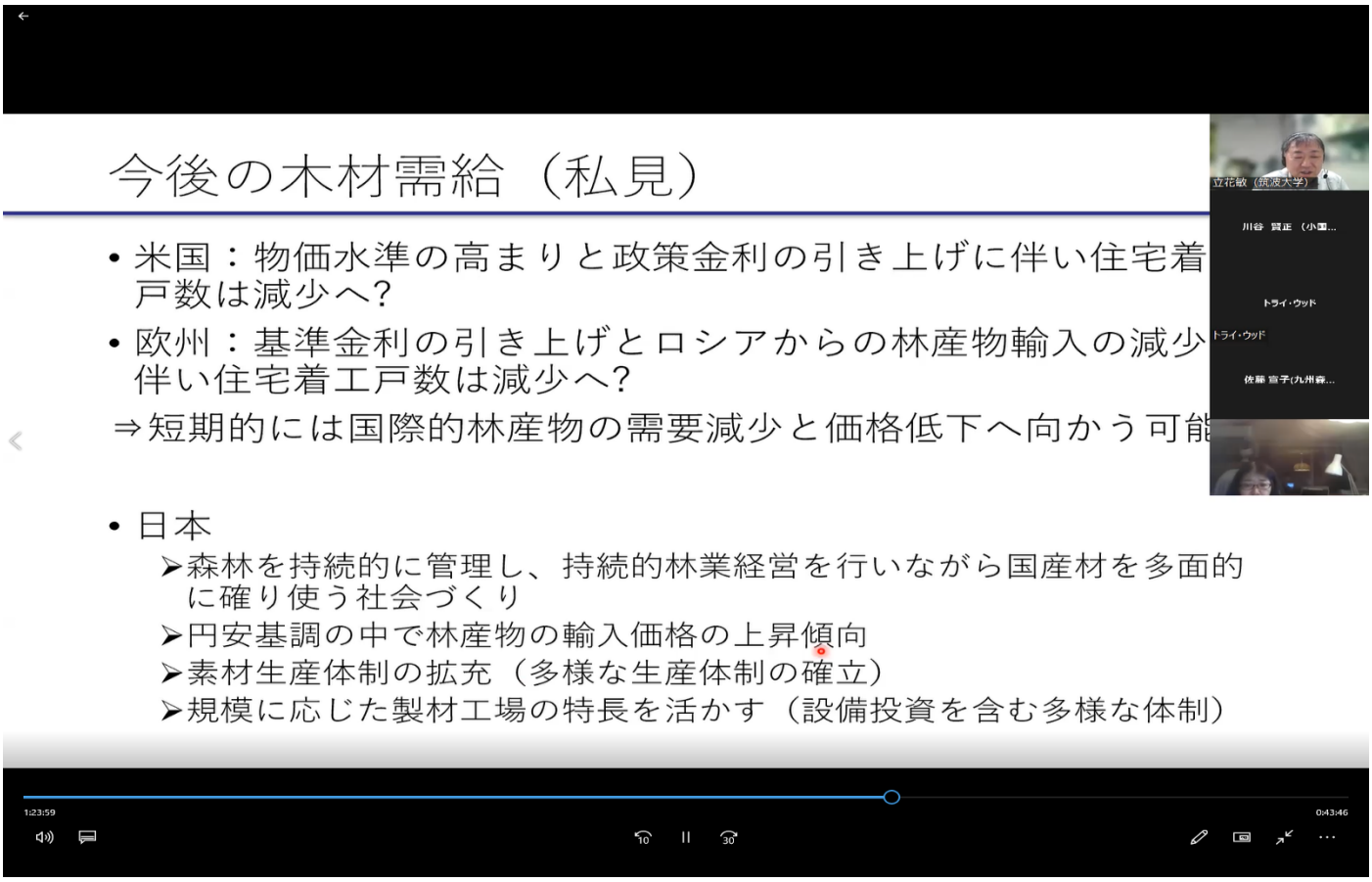
・ウッドショックの因果関係
　　➢需要側の要因：COVID-19 への米国の経済対策、
　　米国の住宅事情
　　➢供給側の要因：米国、カナダ BC 州
・ウッドショック下での日本の住宅着工や木材産業（特に製材）、森林態様
・林業分野におけるドイツと日本の対比
・今後の木材需給






第3次ウッドショックの因果関係は?
Stay -at home
経済支援政策
経済活動停滞
在宅増、時間とお金ができた層
林業・製材工場等生産活動低下
住宅の増改築・住宅購入
製材品等の需要増加
製材品等の供給減少
林産物需給の逼迫↓価格高騰
森林火災の影響
米加林産物貿易
製材品供給減・価格高騰
林業・製材工場等生産活動低下
森林の虫害・火災の影響
林業や製材工場等生産活動低下
米国
カナダ
日本
COVID-19　パンデミック


ドイツの製材業の立地
• 工場数：2,100　（2010年代初頭）
• 雇用者数：11.000人（2010年代初頭）
• 年間売り上げ：40～50万ユーロ（2010年代初頭）
針葉樹材製材工場
広葉樹材製材工場
針葉樹・広葉樹材製材工場



・筑波大学准教授　立花　敏先生　講演後の質問

質問①　アメリカ、カナダでの自然災害、火災、虫害の影響が非常に大きい事を改めて認識しました。その事に関係するのかもしれませんが、2 点ほど質問させて下さい。アメリカについて長期休暇が近づくと価格低下する傾向があるグラフがあったのですが、グラフを見ると日本以上に価格の乱高下があるんだなと認識したと同時にウッドショック前はそこまでなかった。それが長期休暇だけでは説明がつかない取り分けここ 2 年間の価格乱高下 1 万円と 3 万円の違い山側としてはこの乱高下は他の要因があったのではと思いますが如何でしょうか。
また、ドイツについて日本が学ぶ木材需要と供給を増やしていく生産体制が地図で示されていましたが、もしご存知であればドイツでコロナ後の木材価格は日本と同様にウッドショックが生じたのでしょうか教えて下さい。

回答①　アメリカ合衆国における製材品の価格の変化需給関係によって大きく変わると色々な文献に書かれていました。
それはどう言う事なのか、供給できなくなると価格が上がってしまう状況が生じていた。先物取引的な要素も含まれた価格の変化となっており需要と供給の関係の中で需要があっても供給が滞るようであれば一気に上がってしまう長期的な状況だと認識している
あと、ドイツの状況はドイツだけではなく北欧も中欧も含めある程度国際的にウッドショックによって価格が上昇したようですドイツでも同じように住宅を郊外に建てる、リフォームをすることで価格高騰が生じたと国際機関のレポートに出ていました。アメリカは大きな影響を与え波及したようですが、多くの国でも状況が生じた、中国でも同様です。

質問②　環境保全の観点から排出権取引が森林において活発に行われているがこの事とウッドショックの関係があると先生はお考えでしょうか。

回答② 排出量取引については日本では話題になっているがそんなに多くない、排出量取引よりも投資なんじゃないかなと思う、先進国では森林対策に投資をしている、短期的には大きな影響はないと思うが今後森林の造成、木材の需給関係に影響を与えるには考えられることかな、と思います。排出量取引はここ 1、2 年で注目されていますが経済状況が良くならないと取引は増えない、10 年以上前から取引はありましたが下火になったと言うのが国際的な状況だと認識している、またここに来て注目が集まった。これから活発になるのかなと思いますが、排出量取引とウッドショックの直接関係性はないと思います。

質問③ ドイツでは製材所の数は近年変化があるのか。他に需要と供給をどのように繋ぐか流通の仕方は日本と違いがあるのか。この 2 点について質問します。

回答③ ドイツ製材業 2010 年当初、2,100 件、先進国の多くはそうであると思いますが、工場そのものは減少傾向にあり大型化している、林業労働者も多くの国が減っている、生産性が高まれば工場、労働者は減る傾向にあると理解している、大型工場が出来る事で小さな製材所は営業を止めていくところが少なからずある

流通について、原木市場があるのは世界でも日本と韓国だけ、先進国 ・途上国においては伐採現場から直接工場、港に持っていくことになる、日本では小規模な森林所有者であったり、小規模な工場であったりで原木市場が重要な役割を果たしていた。工場が大きくなる事で国有林がシステム販売を始める中で、双方が大きくなる事で直接の売買が成立していった。この 20 年の間で増えてきた。欧米の取引が日本にも広がってきた。

質問④ ドイツ工場の立地の話しで工場数と雇用者数を考えると 1 工場平均 5 人ぐらい、売上げが年間 5～6 千万円とすると規模は大きくない、日本の大規模化の流れと違う戦略ではないかと思うことが 1 つ。それと日本で原木丸太輸入が減っているのは、製品輸入が置き換わっているように認識している、原木輸入が減っているのは間違いないのですが、製材品輸入はそんなに減ってないと思う、置き換わって製材所がいらなくなっているというか、半製品輸入に変わっているのではないか、日本の木材市場が上手く育ってないんじゃないかな流通に関してそんな気がしますが如何でしょうか。

回答④ ドイツはかなりオートメーション化されているのは事実、日本だと丸太が左から右に行って戻って帰ってきて戻っての製材がされてますよね。欧米のプロファイリングシステムは丸太が入ると「スーッ」と行って戻ってくることは無い、製材された板が寸法毎にボックスに入っていくシステムになっているので労働者数が少なめになっている。売り上げについては資料が正確ではないかもしえません、かなり大きな製材工場ではあります。50 万～60 万立法原木を加工する大型製材所が結構あり、小規模な製材所もある資料はあくまで平均である。

日本の場合製材の仕方が違う、海外における木材製品は板、日本は軸組家の建て方海外と違う、基本的に住宅の建て方が違って、製材の仕方が日本と海外では違うと思っている。

質問⑤ 日本の桧丸太をベトナムの製材工場から製材品を日本国内だけではなく中国、中東に売っていく事業を始めている。月に 2 万立法だとか、そうなると日本の大型製材所は海外の大型製材所と将来競争する事になるのではないか。

回答⑤ 10 数年前からある大手工務店がフィリピンに丸太を、製材品を輸出してそこでプレカットして日本に持ってきて日本で住宅を建てる事をやっている工場もありますが、どういった製材品加工品を製材するかで海外と国内での競争があるのではないかと思います。

質問⑥　国内の木材価格の現状はアメリカ国内などの海外需給に大きく左右されているのでしょうか。

回答⑥　今回のウッドショックはまさにそのとおりです。アメリカの国内事情が日本に影響を与えた。
ただ、住宅部材が全部ではなく一部が入ってこなくなるから更に波及していく、今集成材単価が上がっている、ヨーロッパの状況によってはもう少し上がるのでないかと思う。

質問⑦　伐採時期を重要視していましたが、今回原木が足りないとなると時期を選ばずに伐って出したら良いんだと思えたもんですから、その当たりは現場と製材所はどのように考えているのかと、特別な事を考えていく時期なのか気になりますが先生はどの様にお考えですか。

回答⑦　去年の今頃は私の認識では九州で材価が上がって、九州で素材生産が増えたと認識しております。つまり九州の素材生産の皆様は余力を持って素材生産を行なっていたのかなと思いました。東日本では生産は増やせなかった、材価が上がらなかった昨年の年の暮れぐらいから材価が上がってきた。製材加工業社が在庫をどれだけ持てるかで変わってくる通常は 2～3 ヶ月分の在庫を持て製材をしていると思いますので、梅雨時の素材生産が減る時期に乗り越えられるかによると思いますが、去年の場合は急に増えた状況の中で急遽素材生産をあまり増やさない時期に増やした状況があったんだろうと九州の動きを感じました。製材工場としては在庫を多く持つと言う事は土場の問題など色々な問題があり限度がある、2～3 ヶ月分の原木在庫を持つ程度が基本だと思う。

オンライン参加人数

研修会　：　46 名　　（ 会員 23 名　・　非会員 23 名 ）

講演動画を「YouTube」に配信　　現在まで視聴回数　：　63 回

研修会終了後、アンケートにご協力頂きました。

＊参加者の感想　（13　件の回答がありました）

海外の状況等を知れて大変勉強になりました。ありがとうございました。（行政　30 歳代）

価格動向の複雑な背景が、大変よく理解できました。ありがとうございます。（学校関係　40 歳代）

先生お一人でなく複数のパネラーがいた方が良かったのではと思いました。（林家・木材業・建築関連　40 歳代）

ウッドショック発生のメカニズム、日本とドイツの製材業の比較など立花先生のご説明がわかりやすく、非常に勉強になりました。（学校関係　60 歳以上）

ウッドショックの背景等がよく分かりました。（木材業　40 歳代）

ウッドショックの要因と現状、そして今後の見通しについて、データを元に説明頂き、わかりやすかったです。
参加させて頂き、ありがとうございます。（工務店　40 歳代）

木材価格の変動について、国内外の動き等、新たに知ることが多かったです。　（林家・設計・一般ユーザー　30 歳代）

ご講演内容は分かりやすく、また、多様な角度からの情報がちりばめられていて、大変勉強になりました。その中で、日本の課題として、森林所有者・素材生産業者が団結して木材加工・消費業界と交渉してこなかったこと（森林組合が JA のような活動主体ではなかったこと）が現在の構造に大きく影響しているということが印象的でした。ただ、その根底にあるのは、森林組合法にある森林組合の利益追求を強く抑制する条文の曲解による行政指導、林業を補助金漬けにしてきた制度上の問題なども大きくあると考えます。補助金は事業者の効率化努力を相殺させてしまう側面があり、これらが森林組合を脆弱化させ続けてきたように思います。今後は、疲弊しきった森林組合の立て直しをどうするか、もしくは新規の組織化をどうするかが大きな課題かと思うところです。（学校関係　40 歳代）

丁寧で分かりやすい研修会でした。大変勉強になりました。ありがとうございました。（森林組合　50 歳代）

プレミアム研修企画ご苦労さまでした。
立花先生の講話は、木材の今を多角的な視点から資料をもとに解説され、判りやすく、今後の指針となりました。
ありがとうございました。（森林組合　50 歳代）

とても勉強になりました。アメリカの潜在的な住宅取得者（20-30 歳代）が多く，空き家率がとても低いことに，日本社会との違いを感じました。（学校関係　60 歳以上）

統計処理による wood shock の状況はよく解りました。標題に沿った話としては良かったです。ただ、テーマの枠組みを出ているかもしれませんが、以下の感想・疑問を持ちました。
　米材は高騰の中でも季節変動（先物取引）が激しいとの事ですが、日本との取引では、高騰レベルの中で上昇はあっても季節的下落は反映されてないのではないかと思いました？。購入者は総合商社又は専門商社（？）、米材販売者は「森林メジャー」（？）、販売者優位の元に取引が行われているのではないか（？）、特定の取引か、またはスポット市場（？）か、ミクロ経済学に基づく需給曲線を用いた季節変動の説明よりも、もっと知りたいことは多いです。
　ドイツの話の中では、製材工場が大型化して生産性を上げつつ木材資源が多い所・地方に分散立地して、生産量・伐採量を上げているとのことですが、原木はどう調達しているのでしょうか？　原木市場があるのは日本と韓国だけとのこと、そうすると、どのような仕組みで大量の原木を調達しているのでしょうか？　ストックヤード、ブローカーの介在？？
　ドイツとの比較で、日本の森林伐採量を上げるべし、又、立花さんは、林野庁の方針である皆伐を増やして、高齢級に偏っている森林・人工林の齢級配置を平準化・「持続可能」な形にすべしとのこと、大いに異論があります。机上の日本の森林状況と、現場の森林・林業（伐採方式の変化）、自然環境の変化（豪雨時代及びシカ害時代への変化）等は、皆伐のリスクを、九州・球磨川流域などが実証しています。表面的生産性の高い重機を使い、無茶な作業道をつけ、重機で運び出すやり方は日本には合わない。まして、上流の急傾斜地帯はどうしようもない、担い手もいない、伐採跡地に植林してもシカ害でほとんど成林しない場所が多いのです。無秩序な皆伐を増やせば、崩

壊地が増える一方です。
　なお、このような企画をされている「九州森林ネットワーク」に感謝します。
（三嶺の森をまもるみんなの会代表　80 歳）

非常分かりやすい内容で参考になりました。（建築関連　50 歳代）

＊今後取り上げてほしいテーマなど　（10 件の回答がありました）

立花先生が講演の最後の方でおっしゃられていましたが、大規模皆伐をなるべく避けながら生産量を増やすには、どうすればいいのか知る機会・考える機会があるといいかと思いました。特に九州では、伐採と災害の関連も懸念されていますので。　（学校関係　40 歳代）

林業の伐採コストなどもう少し突っ込んだ話が欲しかった　（林家・木材業・建築関連　40 歳代）

木材需要拡大の可能性について　（学校関係　60 歳以上）

スマート林業等の次世代の森林管理について　（木材業　40 歳代）

今回の様に、オンラインセミナーを増やして頂けると参加しやすく助かります。
また、できるならリアル講演会の時も、オンライン受講できるとより助かります。　（工務店　40 歳代）

産直住宅など、地域づくりにおける建築の取り組み　（林家・設計・一般ユーザー　30 歳代）

上記の質問にも記述いたしましたが、森林組合に関するお話をお聞きしたいと思います。　（学校関係　40 歳代）

林業従事者、作業者確保について（いかに魅力を感じるか。）　（森林組合　50 歳代）

市場の資材高騰を受けて、ZEH や ZEB の需要が断熱等級追加による動きもあり、加速化すると考えています。構造材においても地産地消を推奨する中で今後の国内状況の変革を知りたいと考えています。
（建築関連　50 歳代）

研修会終了後、皆様からのアンケート結果を立花先生にお送りしましたところ、ご返事をいただきました。

この度は研修会のアンケート結果をお送り戴き有り難うございました。
皆様からのご感想やご意見はとても参考になるものでした。

　関連する論考を（一財）日本木材総合情報センター刊行の月刊誌『木材情報』8 月号に寄稿しました。もし皆様の

お手元にあるようでしたら、ご覧戴ければと思います。

原木市売市場が林業先進国にないことについて、欧州では林道端での取り引きとなっており、生産した丸太を林道端にまとめて積んでおき、それを購入する者が自ら運んでいくという仕組みになっています。売り方と買い方とのマッチングを図る仕組みがあります。例えば、スウェーデンでは政府系の事業者が一括してそれを担っていると聞いています。
ドイツやフィンランド等では木材生産者組合のような組織があり、そこが買い方と交渉しているようです。本来なら日本にも木材生産者組合のような組織があり、買い方と交渉すればだいぶ木材価格が変わるだろうと思います。
あるいは、大規模な森林所有者と木材加工業者が契約して直納で取り引きを行ったり、木材加工業者が垂直統合により森林を所有して自らで丸太を工場に運んだりもしています。
「大いに異論」と書かれている方に対して、私は生産林において小面積皆伐をしつつ、齢級構成の平準化を図っていく必要があると考えています。その方向でお話をしたつもりでした。
生産林に関して一様に考える必要はなく、また無秩序な皆伐を行うのでもありません。高齢級化を図って持続的林業を行う地域もあり、短伐期化を図って持続的林業を行うところもありという、地域の特徴を活かした林業が大事と思います。
高度経済成長期以降に、3 千本/ha 植栽を基本に一様に進められてきたところに問題があったように感じています。飫肥林業のような体系も、あるいは北山林業のような体系もかつてはあったわけで、地域の特徴を活かした林業が実現できれば、だいぶ状況は変わっていくと思います。

今回の研修会ではとても良い機会を戴き、感謝しております。
また、皆様と意見交換をできる機会があれば幸いと思います。
引き続き宜しくお願い致します。

立花先生ご返事ありがとうございました。

第 27 回九州森林フォーラム in 宮崎県日向市

～アフターコロナ社会における九州の森林づくり・家づくりの行方～

趣　　意　　書

2020 年に発生した新型コロナウィルス感染症の拡大は，3 年目を迎えても終息が見通せず，経済や社会に大きな影響を与えてきました。森林・林業分野でも，国際的な物流の滞留によって木材貿易が縮小するとともに，ウッドショックとアメリカで発生した郊外住宅建築の増加が国際的な木材価格の上昇を招きました。我が国の住宅建築現場でも一部の部材が入手できずに着工の遅れが生じるなど混乱が発生しました。さらに，ロシアのウクライナ侵攻の影響もあり，木材だけではなく食料や石油など多くの一次産品や資源の価格高騰も始まっています。

世界的な感染症の流行リスクは今後も高く，またウィルスの発生自体が自然環境の破壊が招いたと指摘されています。地球規模での環境問題や貿易の変化が，地域に生きる私たちの生業や暮らしに影響をもたらすことが示されたといえます。そうした中で，ライフスタイルを見直し，一極集中が進んだ関東圏から地方への移住も注目されています。また，海外にできるだけ頼らず地域資源に根ざした農林業やエネルギーのあり方の議論も始まっています。

こうした中で，ウィズコロナ，アフターコロナ社会を見据えて，私たちはどのような森づくりと家づくりを目指せばよいのでしょうか。不確実な時代に難しい課題ですが，我が国で最も林業と木材加工が活発な地域である宮崎県日向市において率直な議論を行いたいと思います。林業や木材産業の動向に詳しい赤堀楠雄氏と家造りに詳しい古川泰司氏をお招きし，基調講演をお願いしています。

フォーラムは対面とオンライン併用での開催を予定しています。多くの皆様のご参加をお願いします。

NPO 法人九州森林ネットワーク
理事長　佐藤 宣子

■基調講演者

・林材ライター 赤堀楠雄氏

・アトリエフルカワ一級建築士事務所　古川泰司氏

■事例発表者

・渡邊 美恵 氏（ 福岡県 ）木の和設計

・松竹 昭彦 氏（ 宮崎県 ）松竹建築設計事務所

・黒木 雅文 氏（ 宮崎県 ）耳川広域森林組合 加工課長

事例発表後にパネルディスカッション

コーディネーター

・諸塚村 企画課長 兼 地方創生担当課長 矢房 孝広 氏

■日　　程

2022 年 12 月 16 日（金）13 時～17 時　九州森林フォーラム

同　　17 日（土）9 時～15 時　宮崎県日向市内の現地見学会

■開催場所

日向市文化交流センター（小ホール）

〒883-0046 宮崎県日向市中町 1 番 31 号　　TEL 0982-54-6111　　FAX 0982-54-2575

*参加上限 100 名　　YouTube 同時配信

■交流会

フォーラム終了後、交流会を予定しています。

■問い合わせ先

NPO 法人九州森林ネットワーク事務局（小国町森林組合内　川谷）

電話番号　0967-46-2411

e-mail　kawatani@ogunisugi.com

詳細なスケジュール、申し込み方法については、同封のチラシをご覧ください。